

《履修上の留意事項》面接授業のみ実施

《担当者名》長谷川純子

【概要】

理学療法学分野における国際協力・国際交流の実践の基礎となる、リハビリテーション国際協力論を学ぶ。発展途上国の保健医療事情を含めた世界の理学療法の動向について理解し、またCommunity based rehabilitation (CBR) の概念および障害と開発について学習することで、国際協力における理学療法士の果たす役割を理解し、関連諸分野を含めた国際協力・国際交流における柔軟な問題解決能力を養う。

【学習目標】

【一般目標】

文化が変わると人々の生活も変わる。様々な地域での理学療法の実際を通し、理学療法学分野における国際協力と理学療法士の役割について理解するとともに、柔軟な思考と応用力を身につける。

【行動目標】

1. 世界の理学療法をめぐる状況について、自ら調べ整理する事ができる。
2. CBRの概念について説明できる。
3. 国際協力において理学療法士が果たす役割について述べる事ができる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	オリエンテーション、世界の保健医療分野における現状と課題	授業スケジュール等 保健衛生指標の読み取り方 国際機関における重点課題	長谷川純子
2) 4	発展途上国の保健医療事情	途上国での理学療法の実際 グループワーク(調査・発表)	長谷川純子
5	発展途上国の保健医療事情	途上国での理学療法の実際	長谷川純子
6	グループワークや講演を踏まえての意見交換	グループワークや講演を踏まえての意見交換	長谷川純子
7) 8	CBR	CBRの概念 CBRと理学療法	長谷川純子
9	日本の国際援助	日本が世界各国に対して行っている障がい者支援の例	長谷川純子
10) 14	事例検討	途上国での理学療法場面を想定した事例検討および発表	長谷川純子
15	まとめ	全体の振り返り	長谷川純子

【評価方法】

学習態度(授業課題への取り組み、発表その他) 50%、授業内で課す事例検討 50%
事例検討におけるポイントは授業での発表時間で解説する。

【備考】

参考書 : 久野研二 他 著 「リハビリテーション国際協力入門」 三輪書店 2004年
河野真 編集 「国際リハビリテーション学 第1版」 羊土社 2016年

その他 : 受講希望の方は必ず初回オリエンテーションに参加のこと。参加できない場合は事前連絡すること。

【学習の準備】

理学療法に関連する国際機関のホームページ閲覧(80分)
授業資料を基にした復習(毎回10-20分程度)

事例検討に際して関連ホームページや資料などでの情報収集（120分～）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP4）リハビリテーション専門職として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、適切に対処できる実践的能力を身につけます。

【実務経験】

JICA青年海外協力隊の理学療法士隊員としてブルキナファソ・マラウイ共和国での活動
ザンビアにおける調査研究

【実務経験を活かした教育内容】

理学療法士としての発展途上国での活動経験を生かし、リハビリテーション分野での国際協力の実情・あり方について講義・議論する。